

国分寺市立小学校知的障害特別支援学級設置等検討委員会 (第2回) 要点記録

実施日時	令和5年6月23日(金) 午後1時15分から午後4時まで														
会場	国分寺市立第二小学校														
欠席者	1名														
会次第	1 開会 2 前回要点記録の確認 3 配布資料の説明 4 わかば学級授業参観 5 協議														
<p>1 開会</p> <p>2 前回議事録の確認</p> <p>3 配布資料の説明</p> <p>4 わかば学級授業参観</p> <table border="0"> <tr> <td>第1学年</td> <td>1階わかば1</td> <td>生活単元学習「アイロンビーズで作ろう」</td> </tr> <tr> <td>第2学年</td> <td>1階わかば2</td> <td>生活単元学習「言葉で伝えよう」</td> </tr> <tr> <td>第3学年及び第4学年</td> <td>2階わかば4</td> <td>総合的な学習の時間「タブレットで考えて動かそう」</td> </tr> <tr> <td>第5学年及び第6学年</td> <td>3階わかば5</td> <td>総合的な学習の時間「ものの温度」</td> </tr> </table> <p>5 協議</p> <p>○わかば学級授業参観を踏まえて、児童の学習状況及び環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境や学習について、本委員会で、どのように整えていけばいいかという視点で、本日参観した授業や施設面からも、お気付きのことをたくさんお話しいただきたい。 →一学年で人数が増えると様々な児童が集まり、それが異学年を併せたときに、多くの友達と触れ合えるよさとしてメリットがあると思う。 →以前、児童全員が集まって大集団で授業を行っていて大変だと感じたことがあるが、小集団で、みんな一緒に協力して授業を行うのがいいかという、やり方次第だと感じている。本日授業を参観したところでは、各学級、本当に工夫されていてよかったと思う。 →国語と算数の授業を少人数で実施する場合には、本日参観した部屋だと、2部屋ずつ各階に分かれており、5、6年生については担任が今3人いることから、3グループに分かれているけれども、一部屋足りないことや、もう1グループ静かに落ち着ける場所があったらよい現状がある。部屋を間仕切りで仕切っても、音が漏れ、一方が映像を見ると、児童はやはり気になってしまうことがある。 →児童数が増えたことで、わかば学級全員が集まることができる部屋が現状ではもうなくなってしまっていると感じた。 →特別支援学級の児童数が増えているということを改めて感じた。また、児童がスクールバスに乗っている距離や時間の感覚なども踏まえ、児童がどのように感じているのか、その気持ちも大事にする必要があると思う。家から近い学校に特別支援学級が設置されていて、通いやすいということが大事になってくると思う。 →特別支援学級の児童の定員が、なぜ8人で1学級であるか考えると、少人数の集団で丁寧な授業を行うというのが一番基本になる。これを保障することが大切である。例えば1クラスの児童数が3人あるいは4人の少ない人数で、音楽や体育の授業を実施するよりも、異なる学年が合わさって、例えば10人あるいは20人で、ゲームをやったり、合唱したりという活動というのはすごく意義がある。しかし、例えば、国語や算数の授業も異なる学年を合わせて多い人数で実施した方がよいかというそれは異なる。授業が上手な教員や指導体制が整っていても、特別支援学級で丁寧な指導をする場を設定することと、それに見合う教員数 				第1学年	1階わかば1	生活単元学習「アイロンビーズで作ろう」	第2学年	1階わかば2	生活単元学習「言葉で伝えよう」	第3学年及び第4学年	2階わかば4	総合的な学習の時間「タブレットで考えて動かそう」	第5学年及び第6学年	3階わかば5	総合的な学習の時間「ものの温度」
第1学年	1階わかば1	生活単元学習「アイロンビーズで作ろう」													
第2学年	1階わかば2	生活単元学習「言葉で伝えよう」													
第3学年及び第4学年	2階わかば4	総合的な学習の時間「タブレットで考えて動かそう」													
第5学年及び第6学年	3階わかば5	総合的な学習の時間「ものの温度」													

を配置することで、小集団で児童の発達段階に応じた指導をしていくということになる。
→学級の広さの基本となるのは通常の学級の教室であり、そこを可変で、弾力的に使えるような施設、例えばカーテンということもあるかもしれないが、隣の学習が邪魔にならないような学習環境が必要になると思う。そのように考えると、通常の学級の机、椅子、それから隣の児童とのスペースの、間の距離、教員が補助に入るのだったら、その動線など、きちんと確保できるスペースというのは、個別の学習を保障する上で大切である。特別支援学級においては、教員が個別指導に入ることは、通常学級の授業より数多くそのような機会があり、そのスペースや備品などをきちんとそろえていくのは、環境を整えていく上で大切である。

→学級を新設するのであれば、環境を整える上で、新設学級だけがよくなればよいということではなく、現在設置されている3校についても、同様の方向性を踏まえ、整備をしていくというところが、国分寺市全体で進めていくというのは、これからの課題であると感じた。

・次回の委員会では、学区域の視点なども含めて、学級の新設や学区域の変更などのメリットやデメリットを考えながら検討を進めていければと思う。

○アンケート案について

・児童の考えや意思を確認しながら進めることは大切であると思う。アンケート案について、委員の皆様から意見をいただければと思う。

→児童に尋ねる観点としては、保護者が自分のお子さんに、学校のいろいろな話をする中で、例えば「学校は楽しい」ことを確認し、「学習している教室はどう?」、「先生とお話できる?」など、これらのことを印象で尋ね、大切なことは、児童から何か困っていることや、こうなったらよい、こんなこともやりたい、何かそのようなものが少しでも児童から引き出せたりすれば、そのような学習を保障する環境を少しイメージしていくアンケートになると思う。

→4の質問「困っていること」について、二つ目の設問として、学習ではなく「学校の生活において、困っていることがありますか。」という設問で、「ある」、「ない」と回答するのはどうか。さらに「ある」と回答した人が、具体的に選べるようにした方が、児童にとって、選択しやすいのではないかと思う。また、授業中、気が散ってしまうなど、環境的な要素を入れると、改善がすぐにできないかもしれないが、児童の意見を数多く聞くということから、具体的に設問に書いた方が児童にとって分かりやすく、様々な意見が出るかと思う。

○事務連絡

第3回は、7月26日(水)14時30分～ 国分寺市教育センター